

B-28  $\beta$ -アリルオキシエチルアルコールのアクリル酸エステルポリマーによる樹脂加工 四国女大家政 四十宮龍徳 ○野田良子

目的  $\beta$ -アリルオキシエチルアルコールのアクリル酸エステルを合成し、これを反応性モノマー成分に用いた合成樹脂を作り、これの熱硬化性能と樹脂加工剤として使用した時の加工布の性質を検討した。

方法  $\beta$ -アリルオキシエチルアルコールのアクリル酸エステルの合成は、常法によりエステル交換反応により合成し、 $BP=62\sim65^{\circ}C/6\text{ mm Hg}$   $d_4^{20}=0.9861$   $n_D^{20}=1.4460$  のものを用いた。加工布の試験はジョッパー型織物強伸度試験機による引張強伸度、エレメント引裂試験機による引裂強度、ユニバーサル摩耗試験機による屈曲摩耗強度、クリーズテスターによる防しわ度、クロークソフトネステスターによる硬さ等を測定した。

結果 (1)樹脂皮膜を種々の温度で熱処理し、各種溶剤に浸漬後の溶出率、膨潤度の測定から、 $120^{\circ}C$ で5分熱処理すれば充分なる熱硬化性能があることがわかった。また触媒として、金属ナフテネートを用いると熱硬化性能は更に改良された。触媒の効果は $Co$ ナフテネートが効果的であった。その順位は、 $Co$ ナフテネート $>Mn$ ナフテネート $>Pb$ ナフテネートの順であった。(2)防しわ性は樹脂量の増加と共に向上する。(3)引張強伸度、引裂強力は綿ブロードの低下は大であるが、混紡ブロードには影響がない。(4)屈曲摩耗度はいずれも低下が大きい。(5)硬さはいずれも硬くなる傾向にある。